

ふじのくに感染症管理センターの始動

静岡県健康福祉部 感染症管理センター長・静岡薬剤耐性菌制御チーム
後藤幹生

2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症(以下、コロナと略します)は、静岡県内においても、同年2月に県内で最初のコロナ陽性者が確認された第1波に始まり、同年夏の飲食店クラスターで始まった第2波、同年冬の高齢死亡者が急増した第3波、翌2021年春の初めての変異株アルファ株による第4波、同年夏の中年層重症者が増加したデルタ株の第5波、そして、2022年以降のオミクロン株による新春の第6波、夏の第7波、秋から冬の最大の入院者数・死亡者数の第8波と、3年以上にわたり大きな影響を及ぼし続けました。

しかし、ようやく2023年5月、WHO世界保健機関はコロナに関する「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」宣言を終了し、国内でも感染症法上、コロナは季節性インフルエンザと同じ5類感染症の扱いとなり、日常生活はコロナ以前に徐々に戻りつつあります。

医療機関の皆さまには、コロナに対して長期間、御尽力いただき、心より感謝申し上げます。

ところで、コロナという感染症に悩まされたこの4年間、他の感染症はコロナの陰に隠れておとなしくしていたわけではありません。梅毒は、性生活の多様化のためか過去にないレベルの感染者数増加が続いています。インフルエンザは、コロナに対する入国制限とマスク等感染対策で3年間ほとんど流行しなかったのですが、2022年末から流行再開しました。乳幼児のRSウイルス感染症も2020年は流行が全くありませんでしたが、2021年には大きな流行が長期間続きました。

国内でこれまで報告がなかったサル痘(M痘)が海外から入り、天然痘ワクチンを接種していない40歳代以下を中心に2023年初頭から国内で増加中です。また、2022年には「小児の原因不明の急性肝炎」が報告され、これまで注目されていなかったアデノ随伴ウイルス2の関与が疑われています。一方、県内では、VRE(バンコマイシン耐性腸球菌 *vancomycin-resistant enterococci*)の保菌者が増加している地域があります。マダニに野山で刺されて起こる重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、日本列島を北上中で令和3年に初めて本県でも患者が確認されました。SFTSは人獣共通感染症で、ネコやイヌの感染も増えており、ネコの致死率は5割を超えるそうです。

このように、社会生活の多様な変化と世界のグローバル化の急速な進展、そして我が国では様々な人材不足によって、新興・再興感染症が拡大するリスクは急速に増大しています。

静岡県では、コロナ対応に取り組む中で医療従事者や感染症専門家の御意見を受けて、コロナの次の新興感染症による災害級の危機に備



えるとともに、季節・地域の様々な感染症にも適切に対応するため、2023 年度4月から、県健康福祉部感染症対策課を拡大強化し、三島市谷田の静岡県総合健康センター（前頁写真）の建物内に「ふじのくに感染症管理センター」（以下、感管センターと略します）を設置しました。現在、施設の改修工事中で、来年春にフルオープンとなります。感管センター内には、執務室、PCR 等各種検査室、対策本部設備を持つ会議室、研修動画等の撮影も可能な多目的室などを整備します。

ふじのくに感染症管理センターの果たす役割には、3つの柱があります（下表）。

1つ目は、県内から世界で流行中の感染症の情報を集約・分析し、県民や医療従事者のニーズに合わせて提供することです。お住まいの地域で、今どんな感染症がどの年齢層にどのような規模で流行しているのか、その感染症の症状や予防策、治療法といった情報を感管センターのサイトにてダッシュボード形式でお好みで見られる様にしていきます。

2つ目は、医療施設、福祉施設、学校、職場、家庭などで現場に応じた適切な感染対策ができる人材づくりです。コロナの感染対策の研修用に、県病院協会や県看護協会等、医療関係者の方々に作成していただいた研修・講演の動画や資料、マニュアル等のライブラリーを感管センターのサイト内に構築し、自己学習や施設内研修に役立てていただきます。特に高齢者施設の従事者の方々には、ニーズに応じてリアルな講演会、実地研修、e-ラーニングなどプログラムを充実させていきます。一般県民の方々向けには、基本的な感染予防策や流行間近な感染症への個別対策を動画等で解説します。

3つ目は、今回のコロナで起こった災害級の医療ひっ迫を今後はきたさないように、発熱外来や患者入院病床など医療体制を平時から準備していきます。そして、次の新しいパンデミック型感染症が上陸した際には、感管センターが本県の司令塔となって医療機関や市町と連携して迅速かつ適切に医療提供体制を確保します。県民にはその新感染症に対する感染対策を根拠に基づいてわかりやすく説明します。新しい病原体のゲノム解析は、コロナウイルス変異株と同様に、近隣の国立遺伝学研究所と連携して速やかに実施します。検査や入院のひっ迫時には、感管センター内の検査室はPCR 検査センター、感管センター敷地内の体育館はワクチン接種会場や入院待機ステーションとして機能することを想定しています。

このように、ふじのくに感染症管理センターは、静岡県がコロナの教訓を強く踏まえて設置した、感染症対策に特化した新しい行政機関です。コロナのような世界規模の新感染症による危機は、今後も 10 年前後ごとに繰り返すおそれがあります。今回コロナで私たちが被った苦難を次世代の県民が再び経験せずすむように、これから感管センターは頑張っ取り組んで参りますので、御指導・御意見・御要望をどうぞよろしくお願い致します。

令和5年度設置「ふじのくに感染症管理センター」

「ふじのくに感染症管理センター」が担う3つの柱

- (1) 感染症情報基盤構築
ICTを活用して県内外の重要な感染症情報を集約、分析、提供
- (2) 感染症対応人材養成
医療、福祉、教育、職場、家庭で適切な感染対策ができる人材養成
- (3) 感染症危機時司令塔
次のパンデミックに県の医療体制と感染対策の司令塔機能発揮

（静岡県プレスリリース 「ふじのくに感染症管理センターの開設について」 のリンク↓）

https://www.pref.shizuoka.jp/res/projects/default_project/page/001/053/680/0328kansentaisaku.pdf